



みやぎ元気人 震災を乗り越え酒造りを続ける蔵元「川敬商店」(南郷町)

特集 **継続中です。**
地域経済再生に向けたチャレンジ
 一步一步着実に進む「宮城県緊急経済産業再生戦略プラン」
 よみがえった羽前街道



発行 宮城県総務部広報課 〒980-8570 仙台市青葉区本町三丁目8番1号 ☎022(211)2111(内線2200) URL http://www.pref.miyagi.jp/kohou/ 印刷 仙台印刷工業団地協同組合

第29回 **子ども県政だより**
 いろんなぎもんをナンダロウちゃんとハテナちゃんが楽しく解決!

今年は特に注意が必要です。「花粉症」

ナンダロウくん どうしたの？
 そんな格好して。

ハテナちゃん 目がかゆくて、
 鼻水も止まらないから
 病院に行ったら、
 花粉症って言われたの。

「花粉症」は、スギやヒノキなどの花粉が原因で、目のかゆみ、くしゃみ、
 鼻水などの症状を起こす病気です。
 去年の夏、とても暑かったため、今年のスギ花粉の飛ぶ量は、
 いつもの年よりかなり多くなりそうです。

花粉症の人はどうすればいいの？

- ① 晴れた日や風が強い日は、外出を控え、洗濯物も室内に干す。
- ② 外出するときは、帽子やマスクを身につけ、花粉が付きにくい服を着る。
- ③ 家に帰ったら、外で服に付いた花粉を払い、手を洗い、うがいをする。
- ④ こまめに部屋を掃除する。
- ⑤ 目のかゆみ、くしゃみ、鼻水など「花粉症」と思われる症状が出たら、医療機関でみてもらう。

どうして花粉症になる人が増えたの？

- ① 昔たくさん植えられたスギが成長し、花粉を多く出すようになった。
 最近では、花粉の少ないスギの研究・開発が進められています。
- ② 車の排気ガスなどで空気が汚れ、その汚れに花粉がくっつくようになった。
- ③ 食生活の変化などに伴い、アレルギー症状を起こす人が増えた。

地球の空気をきれいにすることも大切なんだ。

家に帰ったら、必ず手洗いや、うがいをするように心掛けるわ。

健康対策課 ☎022(211)2632

冬の楽しみ

2月の異名は「如月(きさらぎ)」。「衣更着」とも書き、着ているものの上に更に着るくらい寒いからというもつとらしい説もあるようです。いずれにしても、1年中で一番寒い時季であることには間違いありません。

しかし、最近はその寒さが、昔ほど感じられませんが、地球温暖化の影響なのでしょうか。仙台も、私が子どもの頃は、もっとずっと寒かったような気がします。暖かいほうが楽しいと思うこともありますが、昔のあの寒さがなつかしくなったりします。

20年前に、札幌に住んでいました。たったふた冬なのですが、あの寒さを楽しんだ覚えがあります。どかどか雪が降った朝、街全体が真っ白な衣装を着た美しさに包まれます。車で20分走ると、パウダー・スノーのスキー場という環境だったせいもあるでしょう。冬が終わるのを寂しがったものです。零下10 近くになると、足の下の雪がキュッキュと鳴るのですが、その音が今も聞こえる気がします。

早朝ランナーにとって、冬の寒さは苦になりません。手袋、耳当てをして走れば、しきに汗が出てきます。吐く息の白さを目にして走るのも乙なもの。キーンと張り詰めた空気を切り取っていく気分も悪くありません。寒さの中にも、春の気配を感じ取るのは、この時季です。

「北風吹きぬく寒い朝も、心ひとつで暖かくなる」は、吉永小百合さん歌うところの「寒い朝」の一節です。宮城県の経済状況、景気の具合は、まだ寒さの中にあります。心ひとつでというわけにはいきませんが、必ず暖かさが戻ってくることを信じつつ、前へ前へと進んでいきたいものです。

宮城県知事 浅野史郎

特集 継続中です。地域経済再生に向けたチャレンジ

平成15年9月に「宮城県緊急経済産業再生戦略プラン」に着手して今月は、地域経済の再生に向けた各地のさまざまな取り組みや成果

一步一步着実に進む「宮城県緊急経済産業再生戦略プラン」 生に向けたチャレンジ

からほぼ1年半が経過しました。をご紹介します。



改めて「宮城県緊急経済産業再生戦略プラン」とは

低迷する経済から脱け出し、地域が自立できる経済構造へと転換していくことが求められています。県ではその実現のため独自の「緊急経済産業再生戦略プラン」を策定し、効果的な経済産業政策を平成十五年度半ばから平成十七年度までの短期間に、集中的に実施していくとしています。この再生戦略プランでは「雇用対策」と「産業再生対策」を二本柱としています。二年目となる平成十六年度はこの再生戦略プランのほぼ全ての事業が開始され、新たな雇用が着実に生み出されたり、産業再生に向けたさまざまな活動が行われたりしています。

宮城県緊急経済産業再生戦略の進み具合(平成16年12月末現在)

Table with 3 columns: 事業規模, 雇用創出者数, 企業誘致数. Rows show planned vs actual figures for fiscal year 2017.

雇用対策

「雇用の緊急確保」、「企業誘致の拡大」、「身近な社会資本の整備」、「生活者の支援」を戦略テーマとして、四十二の事業が実施されています。

若者の仕事探しを応援する「みやぎジョブカフェ」(仙台駅前アル内)には、二千六百三十一人の就職希望者が登録をしています。この「ジョブカフェ」をきっかけに就職できた方は六百十九人となっています。

離職者が新しく会社などを立ち上げる際に県が支援する事業では、十八件が事業をスタートし、七十一人の雇用創出につながっています。(ケース①参照)

大規模な雇用創出が期待される企業誘致では誘致支援の拡充を図ることにより、四十三社の誘致が決定し、約二千五百人の新たな雇用が生まれています。(ケース②参照)

県内の小・中・高等学校などの校舎や関係施設の施設、防潮水門など五十カ所以上で、耐震改修工事が始まっています。また、特別養護老人ホームなどの整備も進んでいます。こうした工事の実施による雇用拡大も期待されています。

データはいずれも平成十六年十二月末現在のものです。

ケース②

大きな雇用を生むコールセンター

株式会社もしもしボトライン(仙台市) 前田 西男 仙台青葉センター長

弊社では複数の企業からコールセンター業務を請け負っています。昨年十一月に業務を開始し、現在では百五十人を超える方にオペレーターとして勤務していただいています。

前田西男さん

宮城県は、何よりも優良な人材が豊富で、弊社でオペレーターとしてお勤めいただく方の確保が他地域と比べて非常に容易でした。また、市や県でもオペレーターの養成講座に積極的に取り組んでいて、コールセンターの認知度が非常に高いというのも魅力的でした。お世辞ではなく、宮城県は本当にまじめな方が多いですね。弊社としても非常に良かったと思っています。

ケース①

地場産食材をふんだんに使った商品をお届け

【離職者等雇用機会創出促進事業】 有限会社えつる(丸森町) 菅野 孝子さん

以前、食品をお客様に直接販売する仕事をしていたが、商品を提供する側とお客様との間で「ミスに大きな開きがあるのを実感していました。そこで、地元産の素材をふんだんに使っておいしく、安全で安心できる地域密着型の商品をお求めやすい価格で販売しよう」と、昨年月に新しくお店をオープンしました。主な商品は、パンや焼き菓子、パウンドケーキなどで、地元の生産者が作る卵牛乳、小麦粉、果実などを使用しています。生産者にも「自分の商品だ」と思ってもらいたいです。素材の作り手の気持ちを商品に込めて、うまく消費者に伝えられたらいいと思います。



菅野孝子さん



仕込み中の五十嵐美代子さん(共同経営者)



暖かみのあるログハウス風の「えつる」

高橋 由美子さん (オペレーター)



仕事の高橋由美子さん(右)

タ方のテレビコースで偶然オペレーター養成講座を見て、すぐ申し込みましたが、応募者がたくさんいたので三回目ようやく受講できました。講座では模擬的にお客様やオペレーターの立場になった練習があるので、非常に良いイメージトレーニングになりました。コールセンターでのお勤めを考えている方にはぜひ受講をお勧めしたいです。仕事は、お客様の顔が見えない対応となりますので難しい部分もありますが、皆さんに助けられながらがんばっています。何よりも職場の皆さんが明るく、非常に働きやすい環境なので、これからはフルタイムで働きたいと思っています。

冬の楽しみ

2月の異名は「如月(きさらぎ)」。「衣更着」とも書き、着ているものの上に更に着るくらい寒いからというもつとらしい説もあるようです。いずれにしても、1年中で一番寒い時季であることには間違いありません。

しかし、最近はその寒さが、昔ほど感じられません。地球温暖化の影響なのでしょう。仙台も、私が子どもの頃は、もっとずっと寒かったような気がします。暖かいほうが楽しいやと思うこともあります。昔のあの寒さがなつかしくなったりします。

20年前に、札幌に住んでいました。たったふた冬なのですが、あの寒さを楽しんだ覚えがあります。どかどか雪が降った朝、街全体が真っ白な衣装を着た美しさに包まれます。車で20分走ると、パウダー・スノーのスキー場という環境だったせいもあるでしょう。冬が終わるのを寂しがったものです。零下10 近くになると、足の下の雪がキュッキュと鳴るのですが、その音が今も聞こえる気がします。

早朝ランナーにとって、冬の寒さは苦になりません。手袋、耳当てをして走れば、しきに汗が出てきます。吐く息の白さを目にして走るのも乙なもの。キーンと張り詰めた空気を切り取っていく気分も悪くありません。寒さの中にも、春の気配を感じ取るのは、この時季です。

「北風吹きぬぐ寒い朝も、心ひとつで暖かくなる」は、吉永小百合さん歌うところの「寒い朝」の一節です。宮城県の経済状況、景気の具合は、まだ寒さの中にあります。心ひとつでというわけにはいきませんが、必ず暖かさが戻ってくることを信じつつ、前へ前へと進んでいきたいものです。

宮城県知事 浅野史郎

特集 継続中です。地域経済再生に向けたチャレンジ

平成15年9月に「宮城県緊急経済産業再生戦略プラン」に着手して今月は、地域経済の再生に向けた各地のさまざまな取り組みや成果

一步一步着実に進む「宮城県緊急経済産業再生戦略プラン」 生に向けたチャレンジ

からほぼ1年半が経過しました。をご紹介します。



改めて宮城県緊急経済産業再生戦略プランとは

低迷する経済から脱け出し、地域が自立できる経済構造へと転換していくことが求められています。県ではその実現のため独自の「緊急経済産業再生戦略プラン」を策定し、効果的な経済産業政策を平成十五年度半ばから平成十七年度までの短期間に、集中的に実施していくとしています。この再生戦略プランでは「雇用対策」と「産業再生対策」を二本柱としています。二年目となる平成十六年度はこの再生戦略プランのほぼ全ての事業が開始され、新たな雇用が着実に生み出されたり、産業再生に向けたさまざまな活動が行われたりしています。

宮城県緊急経済産業再生戦略の進み具合(平成16年12月末現在)

Table with 3 columns: 事業規模, 雇用創出者数, 企業誘致数. Rows show planned vs actual figures for fiscal year 2017.

雇用対策

「雇用の緊急確保」、「企業誘致の拡大」、「身近な社会資本の整備」、「生活者の支援」を戦略テーマとして、四十二の事業が実施されています。

若者の仕事探しを応援する「みやぎジョブカフェ」(仙台駅前アル内)には、二千六百三十一人の就職希望者が登録をしています。この「ジョブカフェ」をきっかけに就職できた方は六百十九人となっています。

離職者が新しく会社などを立ち上げる際に県が支援する事業では、十八件が事業をスタートし、七十一人の雇用創出につながっています。(ケース①参照)

大規模な雇用創出が期待される企業誘致では誘致支援の拡充を図ることにより、四十三社の誘致が決定し、約二千五百人の新たな雇用が生まれています。(ケース②参照)

県内の小・中・高等学校などの校舎や県関係の施設、防潮水門など五十カ所以上で、耐震改修工事が始まっています。また、特別養護老人ホームなどの整備も進んでいます。こうした工事の実施による雇用拡大も期待されています。

データはいずれも平成十六年十二月末現在のものです。

ケース②

大きな雇用を生むコールセンター

株式会社もしもしポトライン(仙台市) 前田 西男 仙台青葉センター長

弊社では複数の企業からコールセンター業務を請け負っています。昨年十一月に業務を開始し、現在では百五十人を超える方にオペレーターとして勤務していただいています。



前田西男さん

宮城県は、何よりも優良な人材が豊富で、弊社でオペレーターとしてお勤めいただく方の確保が他地域と比べて非常に容易でした。また、市や県でもオペレーターの養成講座に積極的に取り組んでいて、コールセンターの認知度が非常に高いというのも魅力的でした。お世辞ではなく、宮城県は本当にまじめな方が多いですね。弊社としても非常に良かったと思っています。

ケース①

地場産食材をふんだんに使った商品をお届け

【離職者等雇用機会創出促進事業】 有限会社えつる(丸森町) 菅野 孝子さん

以前、食品をお客様に直接販売する仕事をしていたが、商品を提供する側とお客様との間で「ミスに大きな開きがあるのを実感していました。そこで、地元産の素材をふんだんに使っておいしく、安全で安心できる地域密着型の商品をお求めやすい価格で販売しよう」と、昨年月に新しくお店をオープンしました。主な商品は、パンや焼き菓子、パウ



菅野孝子さん

ンドケーキなどで、地元の生産者が作る卵牛乳、小麦粉、果実などを使用しています。生産者にも「自分の商品だ」と思ってもらいたいです。素材の作り手の気持ちを商品に込めて、うまく消費者に伝えられたい



暖かみのあるログハウス風の「えつる」



仕込み中の五十嵐美代子さん(共同経営者)

「えつる」はドイツ語で幸せを呼ぶ鳥「ふくろ」の意味。いなと思っています。これからは、地域の生産者や地元企業の皆さんと横の連携をとりながら商品を大事に流通させていきたいと思っています。

高橋 由美子さん (オペレーター)



仕事の高橋由美子さん(右)

タ方のテレビコースで偶然オペレーター養成講座を見て、すぐ申し込みましたが、応募者がたくさんいたので三回目ようやく受講できました。講座では模擬的にお客様やオペレーターの立場になった練習をするので、非常に良いイメージトレーニングになりました。コールセンターでのお勤めを考えている方にはぜひ受講をお勧めしたいです。仕事は、お客様の顔が見えない対応となりますので難しい部分もありますが、皆さんに助けられながらがんばっています。何よりも職場の皆さんが明るく、非常に働きやすい環境なので、これからはフルタイムで働きたいと思っています。

県政トピックス

「仙台いちごまんじゅう」発売記念 “食べたらほっ。みやぎのお菓子” 販売キャンペーン

県のプロジェクトから生まれた、宮城県産いちごを使った新しいお菓子「仙台いちごまんじゅう」がいよいよ2月1日から発売されます。

これを記念して、「仙台いちごまんじゅう」やおとしの10月に同じプロジェクトから生まれた「ミヤギシロメ大豆を使ったお菓子」をご購入いただいた方の中から抽選で20人に「仙台いちご」をプレゼントします。



「仙台いちごまんじゅう」は4月30日までの期間限定販売です。また、期間途中で商品が完売した場合は、その時点で販売を終了させていただきます。

期間 / 2月1日(火)~15日(火)

対象商品 /

- 仙台いちごまんじゅう
- まめの香(ミヤギシロメ大豆あん100%の大福)
- ミヤギシロメ大豆きんつば
- ミヤギシロメ豆乳ぷりん
- 豆すずめ(ミヤギシロメの豆おかき)

応募方法 / 取扱店で対象商品をお買い上げの際に、応募はがきにスタンプを押しますので、必要事項をご記入の上、店内の応募箱にご投函ください。

取扱店(県内40店舗)は「食材王国みやぎ」のホームページ(<http://www.foodkingdom-miyagi.jp>)をご覧ください。

お問い合わせ

宮城発の新名物菓子プロジェクト実行委員会事務局
(食産業・商業振興課内) ☎022(211)2814
<http://www.pref.miyagi.jp/syoku-syoku>

温泉の魅力を再発見! 湯治相談会開催

古くから県内の温泉地の多くは、長期滞在し、療養や保養を行う「湯治場」として広く親しまれてきました。しかし、近年、県内の一部の温泉地を除いて、利用客の減少傾向が続いています。



青根温泉雪あかり

県では、緊急経済産業再生戦略により、健康づくりを目的とした温泉の利用を推進し、温泉地に昔の湯治場のようなにぎわいを取り戻そうと考えています。

その推進策の一つとして、より多くの皆さんが県内のさまざまな「温泉」の魅力に触れ、温泉を健康づくりに役立てていただくよう湯治相談会を行っています。相談会では、保健師や栄養士が安全で効果的な入浴方法や体に優しい食事の作り方などについてアドバイスします。

今回は、川崎町の冬の風物詩「青根温泉雪あかり」に合わせて行います。雪のほころの中でのんびりお風呂につかり、日ごろの疲れをいやしてみませんか。

日時 / 2月12日(土)午後1時~6時
場所 / 川崎町青根洋館(事前申込不要)

☎0224(85)3122

お問い合わせ

業務課
☎022(211)2652

県議会から

第一回県議会ラウンジコンサート開催

県議会では、年四回議会庁舎一階で「ラウンジ」を開催するようになりました。第一回目となる今回は、二月十六日(水)正午から行いますのでぜひお越しください。

十一月定例会のあらまし

十一月定例会は、十一月十八日から二十二月十六日までの二十九日間の会期で開催されました。



開会日には、議員全員による「楽天使ケル」による支援する県議会の「会」が設立され、球団関係者と議員との意見交換が行われました。なお、一般質問や決算・予算特別委員会総括質疑、議員提案による条例、意見書、請願などの詳しい内容については、県合同庁舎や各市町村窓口、郵便局などの公共施設に備え付けている「みやぎ県議会だより」第七十二号(二月七日発行予定)に掲載しますのでご覧ください。

県議会のホームページから本会議の中継映像や録画映像・会議録をご覧ください。

県議会事務局政務調査課
☎02(211)35992
<http://www.pref.miyagi.jp/kengikai/>
Eメール gyoshas@pref.miyagi.jp

産業再生対策

「中小企業の再生」と「起業の支援・新成長産業の創出」を戦略テーマに、三十一の事業を実施しています。

多くの中小企業経営者の課題となっている資金調達に関して、融資債権担保証券(CLO)市場創設支援事業が実施され、県内の中小企業百八十八社に対して六十三億円の融資が実行されました。中小企業の皆さんへ貸し出す債権を証券化して投資家に販売する仕組み。これまで県内の中小企業は販売や営業が弱いと言われてきました。その支援策として、ヤルスのプロである販売先紹介人「セールスレップ」が首都圏で県内企業の販売先の開拓を行うユニークな支援制度が始まりました。(ケース③参照)

お問い合わせ

経済産業再生戦略局
☎022(211)2717
<http://www.pref.miyagi.jp/saisei/>

ケース③

「品質と価格」の良さを 知ってもらえば勝機あり 「セールスレップ事業」

松島産業株式会社(松島町)
八木 秀一 代表取締役社長



八木秀一さん

弊社は、大理石や御影石を加工してホテルの床や壁を施工したり、まっしほモリーランドという商標で墓石の小売りも手がけたりしています。日本で流通している石のほとんどは外国産です。ですから、直接外国の現地を回り、品質の確かなものだけを見極めて直輸入しています。そのため、品質と価格には大きな自信を持っています。また、平成十五年には建築石材業界では日本で初めてISO9001の認証を取得しました。

弊社としてもこのチャンスを最大限に生かしたかったら、セールスレップさんに営業社員を同行させて、一緒に販路拡大に取り組みました。その成果が新規契約という具体的な形で次々と表れてきています。

また、セールスレップさんからは詳細な月次報告を提出していただいています。この報告からは、取引相手が何を望んでいるかが分かりますし、自社の考えが妥当なのか、思いこみのかを映し出してくれる鏡としても活用しています。



大理石を加工中

第三者機関であるISO(国際標準化機構)が「品質保証」について顧客満足度を高めている企業として国際的客観的「認め」の制度

ケース④

徹底したコスト計算で 農業を企業経営する 【新世代アグリビジネス創出事業】

有限会社グリーンウエーブ(南郷町)
今野 文隆 代表取締役専務



今野文隆さん(左)と千葉幸弘さん

京みず菜は、サラダでもおいしく食べられるという手軽さが受け、鍋のシーズンだけでなく、一年中安定した需要があります。「JAみどりの」が出荷する京みず菜も品質が良いため市場からの評価も高く販売額が大幅に増加していました。

これまでの農業は、稲作に代表されるように、「作れば良かった」。しかし、当然のことですが農業も産業です。きちんとコスト計算をして、経営するという発想がなければ成り立たないと思います。



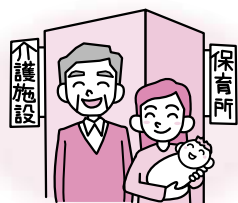
土づくりに励む千葉さん

新規採用された千葉 幸弘さん
高校卒業間近に、先生からこの会社を紹介してもらい、新しい農業にチャレンジしてみたいと思いい、昨年の三月からお世話になっています。毎日が勉強で夏の暑い日など、ハウスでの仕事は大変ですが、仕事をしている実感が、これからもしっかりとがんばっていきたく思います。

表1 地方への税源移譲でたとえばこんなメリットが

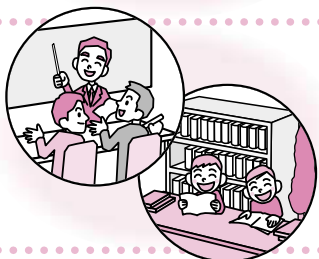
福祉の分野では

地域の実情にあわせて、幼稚園の空き教室や市街地のビルの空きテナントなどを利用した小規模な保育所や介護保険関連の施設を作ったりすることができます。



教育の分野では

少人数教育や、障害のある子とそうでない子が一緒に学べる教育など、住民のニーズに沿った多様な教育を、地方の主体性のもとで進めていくことができます。



公共事業の分野では

担当する国の省庁が異なるため、類似の事業でも別々に行われていた国道や農道、公共下水道や農業集落排水などの整備をまとめて行うことができるようになり、各地域が実情に応じてスピーディに効率よく整備することができます。



事務改善の分野では

国に対する補助金の申請や国による会計検査等に要する地方の膨大な手間と労力を他の業務に有効活用できます。(ある試算では、都道府県だけでも、年間530万時間にも及ぶ手間と125億円の人件費・旅費等が費やされているとされています。)



昨年8月に新潟県で開催された全国知事会議

お問い合わせ
企画総務課
022(211)2415
http://www.pref.miyagi.jp/kitakusom/

「第二幕」が必要でその主役は納税者たる県民の皆さんなのです。県では、今後も機会ある毎に国への働きかけを行います。また、県民の皆さんからの要望に基づいて説明会を開催するなど、今まで以上に積極的「」の地方財政自立のための改革を推進します。

進めています。平成十二年四月に施行された「地方分権一括法」で、国と地方の関係が「上下・主従」から「対等・協力」に見直され、一定の権限が地方へ移譲されましたが肝心の財源の移譲は未解決のままです。実際、皆さんの生活に密接な行政サービスへのほとんどは地方で行われています(図1)。しかし、その財源を見ると、地方独自の税収は三割程度に過ぎません。国庫補助金や地方交付税など国から配分される財源に大きく依存しているのが現状です(図2)。

権限だけでなく、行政を行うための財源も併せて地方に移譲されなければ本場の意味での地方分権は進まないこととなります。

宮城県では、「三位一体の改革」の本来の目的を明確にするために、「地方財政自立改革」と言い換えています。つまり、真の地方自治を実現するため、地方が財政の面で自立するための改革なのです。

この改革で私たちの生活はどう変わる？
これまでは、地方の財源が少ないため住民ニーズに応じた行政を行うために国からの助成を受ける必要がありました。そのため、国の補助制度が決めた全国一律の基準に合わせた仕様で施設整備をするなど、請しました。

地方は全国知事会を中心に数々の激論を重ね、最終的には地方分権を進めるという大きな目標のもと一致団結して具体案をまとめ、昨年八月に政府へ提出しました。この案には、地方の行政サービスとして既に定着しているものや地方が直接行った方が効率的なものなどの国庫補助金約三兆円を平成十八年度まで廃止すること、廃止する国庫補助金に見合った税源を地方へ移譲することなどが盛り込まれました。

しかしながら、その後政府と与党の間で改革の全体像「」が取りまとめられる過程において、中央省庁や国会議員からは、地方案のとおり補助金を廃止し、その分地方へ税源移譲しても、地方は必要な行政サービスの水準を保てないなど、明らかに地方不信と

もいえる理由での反対が相次ぎました。その結果、昨年十一月に最終的に政府が示した改革の全体像は、地方が提案したも

地方がそもそも求めていない、国民健康保険などの地方への負担転嫁や重要な事項の結論を先延ばしするなど改革の本来の大義が失われたものとなってしまいました。

地方が示した「全体像」は地方にとっては非常に不満の残るものとなりましたが、この改革が終わったわけではありませぬ。今回の「全体像」はあくまで平成十八年度までの改革の内容で、劇に例えるならば「第一幕」にすぎません。今後、真の地方分権を実現するためには「第二幕」が必要でその主役は納税者たる県民の皆さんなのです。

政府が示した「全体像」は地方にとっては非常に不満の残るものとなりましたが、この改革が終わったわけではありませぬ。今回の「全体像」はあくまで平成十八年度までの改革の内容で、劇に例えるならば「第一幕」にすぎません。今後、真の地方分権を実現するためには「第二幕」が必要でその主役は納税者たる県民の皆さんなのです。

ご存じですか？ 地方財政自立のための 「三位一体の改革」

～みんなが実感できる地方分権社会を目指して～



なぜ今この改革が必要なのでしょう？
現在、国も宮城県も、地方でできることは地方に、という考えのもと、地方分権を

「三位一体の改革」 (地方財政自立改革)

地方は自らの創意工夫と責任で政策を決める
地方が自由に使える財源を増やす
地方が自立できるようにする

を基本として、国税から地方税への「税源移譲」、税源移譲額に見合う額の「国庫補助金」の廃止、都市と地方における税収格差を調整するためなど国が地方に代わって便宜的に徴収し地方へ配分している「地方交付税」の見直しの三つを同時に進めようという改革です。

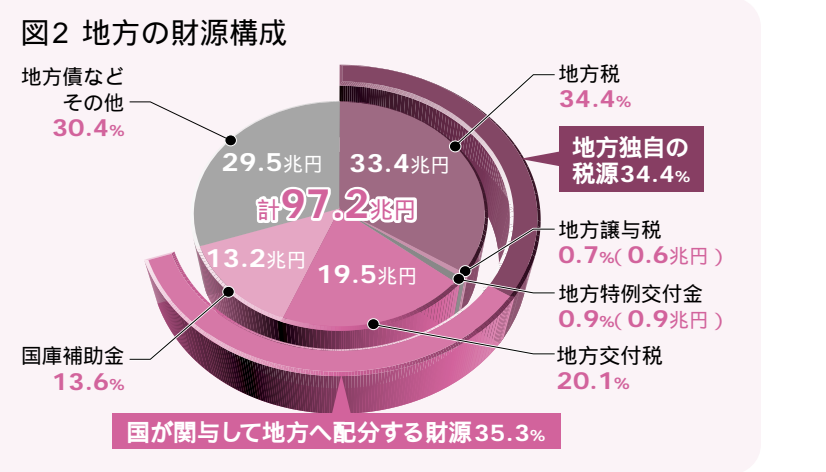
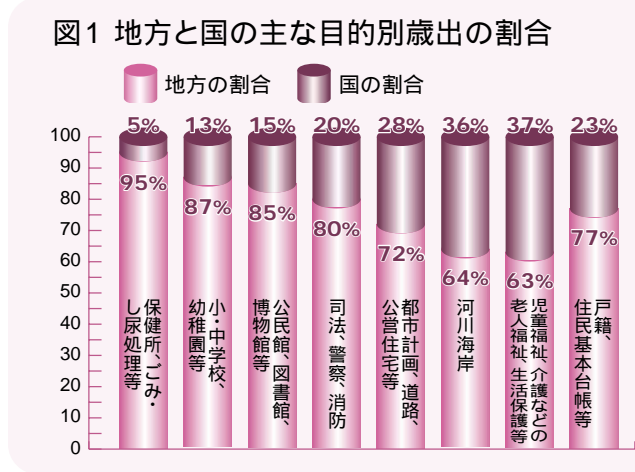
新聞やテレビなどで「三位一体の改革」()について報道されているのをご存じの方も多いと思います。しかし、「内容がよく分からない」「自分には直接関係ない」と思っている方も多いのではないのでしょうか？
実は、この改革は、皆さんの身近な生活に関係が深く、地域の実情に応じて地方が自らの判断で行政を進めるための改革の第一歩なのです。

生活はどう変わる？
これまでは、地方の財源が少ないため住民ニーズに応じた行政を行うために国からの助成を受ける必要がありました。そのため、国の補助制度が決めた全国一律の基準に合わせた仕様で施設整備をするなど、

進めています。平成十二年四月に施行された「地方分権一括法」で、国と地方の関係が「上下・主従」から「対等・協力」に見直され、一定の権限が地方へ移譲されましたが肝心の財源の移譲は未解決のままです。実際、皆さんの生活に密接な行政サービスへのほとんどは地方で行われています(図1)。しかし、その財源を見ると、地方独自の税収は三割程度に過ぎません。国庫補助金や地方交付税など国から配分される財源に大きく依存しているのが現状です(図2)。

権限だけでなく、行政を行うための財源も併せて地方に移譲されなければ本場の意味での地方分権は進まないこととなります。

宮城県では、「三位一体の改革」の本来の目的を明確にするために、「地方財政自立改革」と言い換えています。つまり、真の地方自治を実現するため、地方が財政の面で自立するための改革なのです。



出典:総務省「平成16年版地方財政白書(平成14年度決算)」より

「道は人のくらしとまじりに時を刻んでゆく。道はまじまじに文化の心臓をもちいてゆく。道はまじまじに人の地域をつなかりつづける。」

よみがえった羽前街道

蔵王町宮〜永野〜花町〜四方峠

平安時代、奥州の覇権を巡って源頼朝軍と藤原泰衡軍が一戦を交えた。江戸時代には笹谷峠を越え山形を結ぶ笹谷街道として栄えた。それほど重要な街道だが、明治になると往来は遠のき、いつしか草木の陰に埋もれてしまっていたという。近年、地域の人々が立ち上がり、この道を復元した。道とともに埋もれていた歴史文化も掘り起こされ、一筋の古道は地域の人々の熱意を帯びて今、新たな交流をもたらしている。



アクセス
白石IC～蔵王町宮(車で5分)
宮～永野(車で10分)
永野～花町(車で10分)
花町～四方峠(車で5分)
お問い合わせ/
蔵王町社会教育課 ☎0224(33)2018



四方峠頂上の湯殿山碑

冠雪の蔵王連峰。根無藤付近より

蔵王町宮から川崎町に通じる峠道がある。鎌倉幕府の公的な歴史書「吾妻鏡」によれば、文治五(一一八九)年の奥州合戦で、奥州藤原氏は厚樫山(福島県国見町)に防塁を築いて源頼朝を迎え撃つたものの後退。「根無藤」と四方坂との中間において、両方進退七ヶ度に及び(吾妻鏡)激戦の末、ついに敗れたという。世に言う「文治の合戦」である。

根無藤の先にある花町の集落は江戸時代に「猿鼻宿」として開かれたが、明治時代の大火によってもはや宿場の面影はない。さらに北進すると「羽前街道」と刻まれた大きな石の標柱が現れ、道はいよいよ古道らしくなる。

ここから先、四方峠に至る道は狭く溝状に蛇行していた。この道を復元したのが、「旧羽前街道保存協議会」の人々である。

毎年十月に催す「道中まつり」では大名行列や「文治の合戦」を再現し、町内外の交流と地域の活性化に努めている。

一歩また一歩と峠道を登ると、道に込められた歴史や道を復元した人々の思いが、伝わってくるようだ。



「道中まつり」の大名行列道の復元、史跡や環境の整備のために地域住民が結成した「旧羽前街道保存協議会」を中心に、毎年10月に開催されている。



刈田嶺神社[蔵王町宮]奥州街道との分岐点の宿場町、蔵王町宮にある。白石城主片倉氏の総守護神でもあった名社。宮城県指定文化財。

1



復元された羽前街道[籠立松(かごたてまつ)付近]かつて参勤交代の大名たちが、この地にあった松に籠を立てて休んだといわれる。

曲竹(まがたけ)一里塚[蔵王町曲竹]県道12号沿いに昔の面影をとどめている。



4

付近を走る東北自動車道の工事の際に源泉が発見され、1984(昭59)年にオープン。源泉をそのまま利用した熱めの湯温が好評で、町外からも多くの利用者が訪れる。

定休日 / 毎週月曜日、年末年始など
営業時間 / 午前9時～午後8時
料金 / 300円(町外の方)
問い合わせ / 蔵王町宮字中野129 ☎0224(32)3960



蔵王町老人憩いの家「黄金川温泉白鳥荘」

3

監修 高倉淳氏(宮城歴史教育研究会会長)



冬は松島と大和町七ツ森が面白い!!
「みやぎの磁場」産業づくりモデル事業

プロの料理人が「ちよとげいたくな屋食」をテーマに、地元松島や宮城県産の地場産品をふんだんに使った創作料理を競い合う「四季彩食料理コンテスト」が松島で開催されました。税込み三千円の価格設定で、メニューの試食審査が行われ、十一作品が入賞。この入賞作品は、松島三ツ星冬ランチ」として二月二十八日(月)まで、各店で実際に味わうことができます。ちよとげいたくなのランチタイムをぜひ松島でお過ごしください。



また、大和町七ツ森では、月十一日金に「ウィンターフェスティバル in 七ツ森」が開催されます。南川ダム周辺の陶芸体験館など、七ツ森のふもと全体が会場になります。

ウインターフェスティバル in 七ツ森

午前10時～ 雪像作りコンテスト等
午後5時30分～ 雪灯ろう(～13日まで)
午後6時15分～ 雪神楽
午後7時～ 冬花火

「ご紹介したこれらの3つの取り組みは、県が進めている「緊急経済産業再生戦略」の一つです。仙台地方振興事務所では、観光関連産業を地場産業として育成している」と両地域をモデルにこの事業に取り組んでいます。

仙台地方振興事務所地方振興部
0222(275)9114
松島三ツ星冬ランチ(要予約)
(社)松島観光協会
0222(354)2618

東・西・南・北



田んぼの学校
「みて、ふれて、発見する。遊びの中で学ぶ。」

県内有数の米どころ登米地域では、地元住民と行政が一体となって「田んぼの学校」に取り組んでいます。「田んぼの学校」とは、地域の田園風景や環境を守り、次世代へつなぐ「つとめ」する全国的な活動です。具体的には、子どもたちに遊びながら農業体験などをさせて、環境の大切さを実感し、豊かな感性を育ててもらうなどの活動を行っています。

中でも、学校、農業者、土地改良区、環境保護団体、行政などで組織した任意団体「ナメのがつ」は、伊豆沼・内沼周辺の環境を守る活動や環境保全型農業の推進を目的とし、一年を通じて活動しています。

トである農家の方々が先生となつて、子どもたちに水田での田植えや稲刈りを教えたり、田んぼの生き物調査などを体験したり、自然に親しみながら楽しく学習しています。

「このよつな活発な取り組みが評価され、昨年十月には、『全国田んぼの学校フォーラム in みやぎ』が郡内を会場に開催され、全国から集まった関係者に対し、その取り組みが紹介されました。今地域の田んぼでは新しい発見や感動を受けるたびに、元気な子どもたちの声が響き渡っています。これから、地域の特性を生かし工夫を凝らした「田んぼの学校」の活動に注目してください。

0222(22)5169
迫地方振興事務所農業農村整備部



虹メール



第16回みやぎ蔵王白鳥まつり
蔵王町宮地区にある白石川白鳥河川公園には、冬になると、白鳥をはじめとする数多くの水鳥が飛来します。地元の白鳥愛護会や小学生らが、毎年夏に白鳥の大好物であるマコモを白石川に植栽するなど、白鳥が飛来しやすい環境を整えてきました。当日は、白鳥への餌付けや野鳥観察のほか、蔵王町特産のサトイモが入った豚汁が振る舞われます(数に限りがあります)ので、ぜひお出かけください。日時:2月13日(日) 午前10時～午後1時 会場:白石川白鳥河川公園 白鳥まつり実行委員会 0224(32)2262



岩沼で健康ライフをはじめませんか グリーンピア岩沼
岩沼市が年金資金運用基金から買い取り、健康増進、生涯学習の拠点施設として整備を進めてきたグリーンピア岩沼。テニスコートやグラウンドゴルフ場、自然を楽しめる散策路などのほか、新たにフットサル場や温水プール、「森のプール」ができ、たくさんの家族連れが訪れています。また、「モンタナリゾート」と名称を変えたホテルは、日帰り入浴が人気です。新しくなったグリーンピア岩沼で皆さんもさわやかな汗を流してみませんか? グリーンピア岩沼 0223(25)5122



「おおさき市」開催中 -地域のものは地域で食べよう-
大崎地域の農畜産物や加工品を広くPRし、地産地消を推進するため、昨年12月から毎月第4木曜日に県古川合同庁舎1階ロビーで「おおさき市」を開催しています。この市では、消費者と生産者が顔の見える交流を通じて、食の安全・安心について理解を深めています。また、毎回大崎地域の農産加工品や米、野菜、きのこなどの魅力についてパネル展示も実施します。ぜひ「大崎」を見て食べて味わってみてください。開催日:毎月第4木曜日(祝日の場合は前日) 午前11時45分～午後1時30分 古川地方振興事務所 0229(91)0717



熱中できる何かがあります くりこま高原スノーヴィレッジ
栗駒山の中腹、県内有数の豪雪地帯・栗駒町耕英地区で、さまざまな雪遊びを体験できる「くりこま高原スノーヴィレッジ2005」が開催されます。期間中は地区内の各施設でユニークな雪像がお出迎え。雪のすべり台や雪の家(イグルー)のカフェも登場します。期間:平成17年2月19日(土)～3月6日(日) 場所:栗駒町耕英地区 イベント内容:犬ぞり体験(2月26日～3月6日)スキー大会(2月20日)雪像コンクール(3月6日)スノービル体験(期間中の土日)スノートレッキング(期間中毎日)など 参加料:下記にお問合せください 実行委員会事務局(くりこま高原自然学校内) 0228(46)2626



真心が伝わります。ふる里センターY・Y
米山町あくりパークの一角にある農産物直売所「ふる里センターY・Y」は、町内外からのお客様で毎日賑わっています。店内には、百を超える町内の農家が心を込めて生産した、旬の農産物が並びます。売り場には生産者の写真も表示されているので、安心して食べられると好評です。また、町特産のいちご「雷峰」やトマト、パッションフルーツなども人気です。「あくりパーク」では、元気なダチョウも飼育しています。買い物途中に観察してみても、いかがですか? 営業時間:午前8時～午後5時30分 0220(55)2747



環境にやさしい「いしのまきのいちご」を消費者に!
県内第2位のいちご産地である石巻地域では、いちご栽培組合に所属する全員がエコファーマーの認証を受け、「環境にやさしい」いちご栽培に取り組んでいます。堆肥を豊富に使った土で、化学肥料や農薬を減らした品質重視のいちごづくりに実践しています。主に、糖度が高く果実の大きい「とちおとめ」、「さちのか」、「章姫(あきひめ)」、「紅(べに)ほっぺ」などを栽培しており、6月上旬まで楽しめます。ぜひ、「いしのまきのいちご」をご賞味ください。石巻地域農業改良普及センター 0225(95)7809 いしのまき農業協同組合 0225(22)1179



今が旬!「南三陸春告葉菜類」
冬の寒さに耐え、春先の気温上昇とともに勢いよく成長したホウレンソウやナバナなどの葉菜類は、野菜本来の甘味が強く、ビタミン類も豊富に含まれています。気仙沼・本吉地域では、こうした葉菜類を「南三陸春告葉菜類(はるつげようさいるい)」と命名し、ブランド化に取り組んでいます。その一環として、今年度、生産拡大に力を入れてきた「ちぢみほうれんそう」が、現在出荷の最盛期を迎えています。冬場の寒さにあたってちぢみがついたホウレンソウは、厚みと甘味があり、おいしさと好評を得ています。本吉地域農業改良普及センター 0226(42)2637 南三陸農業協同組合 0226(46)3680

「北方領土の日」 宮城県塩竈集会所開催

2月7日は「北方領土の日」です。
わが国固有の領土である北方四島(歯舞群島・色丹島・国後島・択捉島)返還の実現は、長年にわたる国民の願いです。この問題の正しい理解を広めるため、県民集会所を開催しますので、ぜひご参加ください。
日時 = 2月7日(月)午後1時30分～
場所 = 塩竈市市民交流センター遊ホール
問 北方領土返還要求宮城県民会議(県広報課内)
☎022(211)2285

危ない広告を見極める目を持つ！ ～消費生活特別講演会～

私たちの周りには、新聞、雑誌、テレビ、チラシなどを媒体としたさまざまな広告があふれています。
「期間限定サービス」日でkg減量」といった言葉に惑わされ、結果的にトラブルに巻き込まれるケースもあります。
危ない広告を見極めるにはどうしたらよいか、みんなで考えてみませんか。
日時 = 2月24日(休)午後1時30分～3時10分
場所 = 宮城県婦人会館5階講堂(仙台市青葉区錦町1丁目1-20)
参加費 = 無料
定員 = 80人(先着順)
申し込み = 2月21日(月)までに、宮城県消費生活センター☎022(261)5164へ

サン・ファン感謝デー 「海苔フェスタ」

サン・ファン館では、利用者の皆さんに感謝の意を込め、多くの方々に楽しんでいただける手作りイベントを毎月開催しています。
2月は「海苔」をテーマに海苔の試食・販売を行います。
また、2月28日(月)までエントランスホールに「平成16年慶長使節船写真コンクール」の入賞作品を展示していますので、ぜひご覧ください。
期日 = 2月20日(日)
時間 = 午前10時30分～午後2時30分
問 サン・ファン館企画広報課
☎0225(24)2210

森林ボランティアのための 機械操作・メンテナンス講習会

対象 = 県内で森林整備作業などをボランティアで行っている団体や個人
日時 = 2月27日(日)午前10時～午後3時
場所 = 県林業試験場(大衡村)
内容 = チェーンソー、刈払い機などの安全操作とメンテナンスの講義と実習
参加費 = 無料(昼食持参)
定員 = 30人(応募者多数の場合、抽選)
申し込み = 2月10日(休)まで、往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号を記入し、県林業試験場(〒981-3602大衡村字はぬ木14)へ
問 県林業試験場
☎022(345)2816

M・Y - フェスタ開催

県が展開する青少年育成推進事業に参加した若者の研修成果・活動内容の発表やパネル展示を行います。国内外での環境問題等の調査、NPOでの体験学習、市民活動への取り組みなど、各方面で活躍する若者達が自らの体験を紹介します。
日時 = 2月5日(土)午前11時～
場所 = エルパーク仙台(141ビル6階)
入場料 = 無料
問 県青少年課
☎022(211)2558

「耳の日」イベント開催

3月3日は「耳の日」です。耳の健康について、専門の医師が講演、医療相談を行います(参加無料)。
日時 = 2月27日(日)午後1時～
場所 = 仙台市医師会館(仙台市若林区舟丁64-12)
問 県医療整備課
☎022(211)2614

宮城県警察音楽隊 定期演奏会開催

日時 = 2月26日(土)午後2時～4時
場所 = 宮城県民会館大ホール
整理券 = 2月7日(月)から各警察署警務課、県警察本部広報課で配布予定
問 県警察本部広報課
☎022(221)7171 内線2173

芸術銀河2004 七ヶ浜国際村ミュージカル 「MEGURU(めぐる)」

内容 = 七ヶ浜町に伝わる伝説や歴史を題材とした、梶賀千鶴子氏書下ろしのオリジナルミュージカル
出演 = NaNa5931
日時 = 2月20日(日)午後3時開演
場所 = 宮城県民会館大ホール
入場料 = 一般2,000円、高校生以下1,500円(全席指定)
前売所 = 七ヶ浜国際村、ローソン全店、県民会館、藤崎、さくら野、141ほか
問 県生活・文化課
☎022(211)2527

高嶋ちさ子&加羽沢美濃 ～気軽にクラシック～

日時 = 3月6日(日)午後3時開演
会場 = 名取市文化会館大ホール
曲目 = G線上のアリア、アヴェ・マリアほか
入場料 = 全席指定4,000円(税込)
前売所 = 三越、藤崎、県民会館、名取市文化会館ほか
問 宮城県文化振興財団
☎022(225)8641

県立高等技術専門学校「訓練展」

日時・場所 = ①2月19日(土)午前9時～正午...仙台高等技術専門学校(テクノフェスタ2005の名称で開催)
②2月26日(土)午前10時～正午...石巻高等技術専門学校
内容 = 学生が製作した作品の展示・販売など
問 仙台高等技術専門学校
☎022(258)1151
問 石巻高等技術専門学校
☎0225(22)1719

相談

身体拘束相談窓口

介護保険利用者(家族)や介護担当者からの身体拘束廃止に関する相談に応じます。また、相談員が施設などに直接伺う現場相談も随時行っています。

相談日 = 月～金曜日
場所 = 和風園(大和町大字小野前沢1)
問 宮城県和風園
☎022(346)2229

すこやか子育てテレホン相談

内容 = 発育、しつけ、生活習慣などの子育てに関する相談
日時 = 毎週月～金曜日(祝日を除く)の午前10時30分～午後4時(FAXは24時間受付)
☎022(211)0451
FAX 022(227)9148

女性医師による 女性の健康相談

県では、宮城県女医会と協働して、女性特有の病気やお悩みに女性医師が相談に応じています。気軽にお申し込みください(相談無料・秘密厳守)。
日時 = 毎週土曜日(時間は申し込みの際に、お伝えします)
場所 = 仙台市内
申し込み = ☎090(5840)1993(月～金曜日の午前9時～午後5時)。これ以外の時間は留守番電話に録音してください。折り返しご連絡します。
問 県健康対策課
☎022(211)2623

労働相談・あっせん

会社内でのトラブルなどの労働相談を随時受け付けています。
また、弁護士による無料相談(予約制)もあります。
このほか、県労働委員会では、県労政・雇用対策課と連携して、労使紛争の解決に向けたあっせんを行っています。
問 県労政・雇用対策課
☎022(211)2771
問 県労働委員会
☎022(211)3787
県地方労働委員会は、1月1日から県労働委員会に名称が変更されました。

意欲のある中小企業の 再生を支援します

独自の技術や優れた商品・企画を持ちながらも、売り上げの不振などで悩んでいる中小企業の経営改善への取り組みを中小企業診断士などの専門家が継続的に支援します(相談無料・秘密厳守)。
事前に電話でご予約ください。
問 県中小企業再生支援協議会
☎022(722)3858
<http://www.joho-miyagi.or.jp/saisei/>

中小企業のための 「経営の出前相談」

「新たな事業に取り組みたい」、「経営の課題を整理したい」など、中小企業の経営基盤を強化するためのお手伝いをします。また、必要に応じて専門家の派遣や窓口の紹介、経営に役立つ情報の提供も行っています。気軽にご相談ください。
問 県経営金融課
☎022(211)2741

スマトラ島沖地震・津波被災者への 救援金をお願いします

【救援金の受付】
郵便振替
口座番号 02280-6-82286
口座名義
「スマトラ島沖地震・津波宮城県救援金募集委員会」
振替手数料は有料となります。
募金箱の設置
県庁1階総合案内、パスポートセンター、県議会1階受付、各合同庁舎パスポート申請窓口、各保健福祉事務所など
問 県保健福祉総務課
☎022(211)2513

テレビガイド

仙台放送 たきたて!みやぎDON

2月19日(土) 午後1時～1時25分
再放送 / 2月22日(火)
午前1時43分～午前2時09分

行政情報、県内各地の話題などホットで新鮮な情報を満載した、みやぎの今を伝える情報誌感覚の番組です。(文字スーパー付き)

ダテナビ100選 唐桑町
特集 がんばれ!楽天イーグルス
旬のひと味 気仙沼のフカヒレ

宮城テレビ放送 みやぎ情報クルーズ ～ミュージン～

毎週木曜日
午後9時55分～9時58分

県からのお知らせを分かりやすく楽しくお伝えします。(文字スーパー付き)
放送日時が変更になる場合があります



番組キャラクター ミュン

県の施設の催しガイド

カルチャークラブ

美術館、東北歴史博物館の小・中学生、高校生の常設展観覧料は無料です。

宮城県図書館 ☎022(377)8441

LD(レーザーディスク)上映会
内容 = アカデミー賞作品
「武器よさらば アメリカンバジョン」
日時 = 2月5日(土)、6日(日)午後1時30分～
場所 = シアター青柳館(申込不要)

DVD上映会
内容 = フランス国立美術館連合公認
「Louvre ルーブル訪問」
日時 = 2月19日(土)、20日(日)午後1時30分～
場所 = シアター青柳館(申込不要)

【今月の休館日】
4日(金)、7日(月)、14日(月)、21日(月)
特別整理期間 = 2月24日(休)～3月9日(休)

県民ロビーコンサート ☎022(211)2527

日時 = 2月23日(水)午後0時15分～45分
場所 = 県庁1階県民ロビー
出演 = アンサンブル横「ハーモニカ」
曲目 = 「雪がふる」「見上げてごらん夜の星を」ほか

宮城県美術館 ☎022(221)2111

特別展「太陽と精霊の布」
期間 = 1月22日(土)～3月27日(日)
特別展観覧料 = 一般600円
大学・高校生300円
小・中学生200円

【今月の休館日】
月曜日(7日、14日、21日、28日)

東北歴史博物館 ☎022(368)0101

特別展「福よ来い! 古今東西めでた尽くし」
内容 = さまざまな生活用品や縁起物から「福」を探る

日時 = 2月13日(日)まで開催
場所 = 特別展示室
観覧料 = 一般・大学生700円
高校生500円
小・中学生300円

【今月の休館日】
月曜日(7日、14日、21日、28日)

ご案内



難病の子どもへの医療費助成制度が拡充されます

平成17年4月1日から制度が改正され、助成対象となる病気の範囲などが拡充されます。制度をご利用いただくには、一定の基準を満たした上で、保健所へ申請手続きを行うことが必要です(所得に応じて自己負担があります)。

詳しくは、下記へお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

問 県健康対策課

☎022(211)2636

<http://www.pref.miyagi.jp/kentai/shouman.htm>

問 仙台市子ども企画課

☎022(214)8189

問 県各保健所

(仙台市は各区保健福祉センター)

仙台空港から関西、ヨーロッパ方面へのお出掛けが便利になります

仙台空港では、2月17日(休)からJALエクスプレスによる「仙台～伊丹便」が1便増便され、1日6往復に、全日空の5往復、IBEXエアラインズの2往復と合わせて1日13往復の運航となります。

また、2月17日(休)の中部国際空港の開港に伴い、日本航空名古屋便の運航時間が繰り上がり、パリ便やフランクフルト便への乗り継ぎが可能になりました。

各方面へお出掛けの際は、ぜひ仙台空港をご利用ください。

問 県空港対策課

☎022(211)2432

自動車の抹消・名義変更登録の手続きはお済みですか

自動車税は、毎年4月1日現在で運輸支局に登録されている自動車の所有者(所有権留付自動車の場合は使用者)に課税されます。すでに廃車・譲渡していても、抹消登録や名義変更登録手続きを3月末日までに行わないと、平成17年度分の自動車税が課税されますので、手続きがお済みでない方は、お早めに。

問 県税務課

☎022(211)2326

問 各県税事務所

産業廃棄物税について

平成17年4月1日から県内の最終処分場に搬入される産業廃棄物に対して、搬入重量1トンにつき1,000円の産業廃棄物税が課税されます。

税は、排出事業者や中間処理業者の方が産業廃棄物を最終処分場に搬入したときに、最終処分業者の方に徴収していただくこととなります。

問 県税務課

☎022(211)2324

問 各県税事務所

医療法人の設立について

今年7月から12月までに業務を開始する医療法人の設立を予定している方は、医療法人設立認可申請書の事前審査を受けてください。

財産基準日 = 平成17年2月28日

提出先 = 県医療整備課

提出期間 = 3月17日(休)～31日(休)

問 県医療整備課

☎022(211)2614

募集



宮城大学平成17年度前期科目等履修生募集

宮城大学では、県民の皆さんを対象に、開講している授業科目を履修できる科目等履修生を募集します。

対象科目 = 4月開講の前期科目

募集期間 = 2月7日(月)～16日(水)

選抜方法 = 書類選考、面接など

募集要項 = ホームページ

(<http://www.myu.ac.jp/>)からダウンロード、または200円切手を貼った角型2号の返信用封筒を同封し、郵送で下記へ請求

問 宮城大学事務局教務第二班

〒981-3298大和町学苑1番

☎022(377)8333

みやぎコールセンターオペレータ養成セミナー

対象者 = コールセンターでオペレータとして働きたいと考えている方

講習期間 = 3月7日(月)～11日(金)

定員 = 30人(事前説明会出席者から選考)

場所 = (株)ベルシステム24東北支店内

(仙台市青葉区一番町タワービル12階)

受講料 = 1,500円

募集期間 = 2月2日(水)～22日(火)

申込先 = オペレータ養成セミナー事務局

☎022(214)4771

【事前説明会】

期日 = 2月24日(木)

場所 = 日専連ビル(仙台市青葉区一番町)

問 県情報産業振興室

☎022(211)2479

みやぎコールセンタースーパーバイザー養成講座

対象者 = コールセンター業務経験者などでスーパーバイザーを目指している方

講習期間 = 3月14日(月)～19日(土)

定員 = 40歳以下の方10人(事前説明会出席者から選考)

場所 = 電力ビル本館内(仙台市青葉区一番町)

受講料 = 3,000円

募集期間 = 2月1日(火)～10日(休)

申込先 = スーパーバイザー養成講座事務局

☎022(264)5045

【事前説明会】

期日 = 2月18日(金)

場所 = 電力ビル本館内

問 県情報産業振興室

☎022(211)2479

新しい「環境基本計画」基本方針案への意見募集

平成18年3月策定予定の環境基本計画の基本方針案について資料を公表し、県民の皆さんのご意見を募集しています。資料閲覧場所 = 県環境政策課、県の各保健福祉事務所・支所環境公害(衛生)班、ホームページ

(<http://www.pref.miyagi.jp/kankyo-s/>)

意見提出方法 = 2月28日(月)までに、郵送(〒980-8570住所不要) FAX 022(211)2669、Eメール kankyo-s@pref.miyagi.jpで県環境政策課へ

問 県環境政策課

☎022(211)2663

愛鳥週間コンクール作品募集

愛鳥週間(5月10日～16日)にちなんでポスターコンクールの作品を募集します。応募資格 = 県内の小・中学校、高等学校、特殊教育諸学校在学中の児童・生徒

応募方法 = 学校を通じて、各県地方振興事務所へ(各校10点以内)

応募期限 = 4月13日(水)

作品の規格など詳しくは、下記へお問い合わせください。

問 県自然保護課

☎022(211)2673

森林インストラクター養成講座受講者募集

森林での野外活動の指導や、森林・林業の普及活動を行う森林インストラクターの養成講座を開設します。

講座内容 = 森林内の樹木、植物、鳥類、動物、昆虫などに関する講義・実習

募集人数 = 30人程度

受講資格 = 平成17年4月1日現在、満20～65歳の県内在住の健康な方。

受講期間 = 平成17年4月～平成18年3月の土・日曜日(約20日)

申込方法 = 2月28日(月)までに、申請書に800字程度の小論文を添えて提出

申請資料の請求 = ホームページ(<http://www.pref.miyagi.jp/sizenhogo>)

からダウンロード、または「養成講座資料請求」と朱書きした封筒に、80円切手を貼った返信用封筒を同封し、県自然保護課(〒980-8570住所不要)へ

問 県自然保護課

☎022(211)2676

新「みやぎの福祉・夢プラン」一次案への意見募集

宮城県の新しい保健・医療・福祉の総合的な計画となる新「みやぎの福祉・夢プラン」の一次案に対するご意見を募集しています。

資料閲覧場所 = 県ホームページ

(<http://www.pref.miyagi.jp/t-fukushi/>)、県政情報センター、県政情報コーナー、県地域福祉課、各保健福祉事務所

意見提出方法 = 2月28日(月)までに、郵送(〒980-8570住所不要) FAX 022(211)2595、

Eメール yumep@pref.miyagi.jpで県地域福祉課へ

問 県地域福祉課

☎022(211)2519

地域の木材を使った住宅見学バスツアー

内容 = 地域で育った木をふんだんに使った住宅の見学、住宅の構造や家づくりに関する説明

期日 = 2月19日(土)

見学場所 = 大河原町・角田市・丸森町

集合場所 = 県大河原合同庁舎またはJR大河原駅

参加費 = 800円

定員 = 30人(先着順)

申込期限 = 2月10日(休)

問 県大河原地方振興事務所林業振興班

☎0224(53)3249

FAX 0224(52)3485

母子家庭等就業支援講習会

科目・定員 = ①ホームヘルパー2級(30人) ②マイクロソフト エクセル スペシャル ストレベル(10人)

日時 = ①4月10日～10月16日の各日曜日17日と平日5日程度

②4月17日～7月24日の各日曜日12日(①②ともに午前9時～午後4時。①は5時までの日もあり)

場所 = ①宮城県母子福祉センター

②パソコンプラザせんたい東口校

対象 = 県内の母子家庭の母・寡婦で全日程受講可能な方

費用 = 受講料無料。教材費などは実費

託児 = ①3歳～小学2年生 ②なし

申し込み = 2月21日(月)まで(必着) 往復はがきに住所、氏名、年齢、電話番号、講座名を記入し、下記へ

問 宮城県母子福祉センター

〒983-0832 仙台市宮城野区安養寺3-7-3

☎022(256)6512

<http://www.h2.dion.ne.jp/miyagi/b/>

催し



自然教室開催

内容 = 春を待つ生き物たちの観察

期日 = 2月20日(日)

場所 = 蔵王野鳥の森自然観察センター「ことりはうす」

対象 = 小学3年生以上20人(応募多数の場合、抽選)

参加費 = 300円

申し込み = 2月7日(月)までに、自然教室事務局 ☎090(1936)0606へ

問 県自然保護課

☎022(211)2674

みやぎ元気人

震災を乗り越え酒造りを続ける蔵元「川敬商店」(南郷町)



宮城県北部連続地震では半分以上の蔵が倒壊。再び酒造りへと向かわせたのは、銘酒「黄金澤」への一途な思いでした。「山麩」と呼ばれる昔ながらの製法にこだわり、昨年の全国新酒鑑評会では見事に金賞を受賞。地震で多くのものを失いましたが、蔵人の皆さんの信念は決して揺らぐことがなかったようです。(ひ)

ラジオガイド

TBCラジオ 県からのお知らせ

金曜日 午後3時59分～4時 12.60kHz

TBCラジオ ラジオ県民だより

土曜日 午前10時25分～10時30分 12.60kHz

Date FM アラウンド ザ ミヤギ

月～金曜日 午前10時35分～10時39分 77.1MHz

みやぎの人口

みやぎの人口	県推計人口	男	女	住民基本台帳に基づく世帯数	外国人登録人口
平成16年12月1日現在	2,371,212人	1,155,785人	1,215,427人	867,239世帯	16,749人

県推計人口/国勢調査人口を基礎とした総人口 世帯数は、住民基本台帳に基づく平成16年11月末現在の世帯数